



志木小学校だより

＜学校地域教育目標＞ ○明るくあいさつのできる子
○思いやりのある子 ○地域を大切にする子 ○意欲的に学ぶ子

志木市立志木小学校
令和7年度 第9号
令和8年1月8日(木)
志木市本町1丁目10番1号
TEL 048-471-0111
児童数1月8日現在940名



箱根駅伝の舞台裏で

校長 石井 都

新年、あけましておめでとうございます。今年度、開校151周年目となる志木小学校ですが、唯一無二の歴史と伝統を大切に守りながら、前例踏襲にとらわれることなく、開校200周年に向けて、さらに一歩前進することを目標に、今年も教職員一同、一致団結し、教育活動を推進してまいります。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

今年は、新年早々、雪が降りましたが、三が日としては48年ぶりの積雪(1cm以上)でした。お正月の三が日に積雪が観測されるのは、非常に稀なことだそうで、初雪であっても、11年ぶりだったそうです。

さて、1月2日、3日に第102回東京箱根間往復大学駅伝競走に関東の20校とオープン参加の関東学生連合を加えた21チームが参加し、開催されました。今季はチームの力が拮抗しているため混戦するだろうという評判を聞き、一箱根駅伝ファンとしては、とても楽しみにしていました。そのような中、青山学院大学は、従来の大会記録を大幅に更新する10時間37分34秒の大会新記録で3年連続9度目の総合優勝を果たしました。往路では、1区16位スタートでしたが、徐々に差を詰め、「山を制する者は箱根を制する」と言われる特殊区間の5区で先頭に立ち、そこからは一度も先頭を譲らない圧巻のレース運びでした。圧倒的な強さを誇る青山学院大学ですが、前回優勝メンバー6名が卒業し、今年の新チームは「箱根駅伝優勝確率は0%」と原監督に言われるほど、厳しい船出だったそうです。今回、5区を走った黒田朝日選手は、優勝チームから選ばれる「大会MVP」と全チーム対象の最優秀選手となりましたが、青山学院大学の強さは、選手一人に頼らない全選手がそれぞれの区間で対応できるだけの力を持っているところにあります。原監督は「陸上競技は正しい技術を持って行えばそれに見合う身体つきになり、自信(心)が生まれる」と話しています。そして、何よりも選手の自律性を重視し、選手自ら課題を見つけ、考え、解決策を見いだすことを促す「青山メソッド」を指導の軸としているそうです。この考え方は、本校でも、特に、高学年で意識させている「自主・自律」や主体的に学ぶ態度の育成に通ずるところがあると捉えています。

また、今回の箱根駅伝を見ていると、選手の周りを走る白バイや車の音が静かだったり、排気ガスが全然見えなかったりしました。調べて見ると、実は、選手にも地球にもやさしいクルマをコンセプトに、日本の「脱炭素」を象徴する大会でもあったということがわかりました。本大会のために製作したという大会本部車は、排気ガスゼロの水素を燃料とする燃料電池車(FCEV)で排出は水だけ、全てが排気ガスや二酸化炭素の排出を減らした電気自動車(BEV)やハイブリッド車

(HEV)、数ある車両のなかで異彩を放っていた「e-Palette(BEV)」は、静かでスムーズに救護ができる動く救命室としての役割を果たしていました。白バイも、国産の新型EVバイクが1区と10区の先導車両となりました。これは、東京都が推進する環境先進都市実現に向けた取組の一貫として採用されたそうです。選手が輝く箱根駅伝の舞台裏で、日本の環境技術が結集していたことに更なる感動を覚えました。

＜目標を設定する際に意識すると良いこと＞

SMARTを意識する	
S Specific	具体的
M Measured	測定できる
A Achievable	達成可能
R Realistic	現実的
T Timed	期限が明確

5W1Hを意識する	
When	いつ
Where	どこで
Who	誰が
What	何を
Why	なぜ
How	どのように

新年にあたり、今年1年の目標を設定することもあるかと思います。その際、左記を参考にされてみてはいかがでしょうか。

「P D C A」(計画・実行・チェック・改善)に基づく目標管理です。箱根駅伝でも青山学院大学陸上部の話は有名です。

